

無義をもって義とす

梶原敬一

弔うとは亡き人を悲しみ傷むとゆうことだりではありません先に逝った者^{ひと}たちを訪ひ問い尋ねることでもあります

追弔法会とはまさにこの亡き人たちと出会い直し—その声を聞き願いを確かめることでもあります

死はもとより一人ひとりの死であります

様々な人生を送り—様々な人の関係の中で作り上げた人生の形そのものであります

—しかしながら死は同時に個人の思いを超えた—その人たちが生きて時代と社会によつて形づくられたものでもあります

戦没者とは戦争の時代に国家の名の下で死んでいった人たちの生の形そのものです

戦没者を全戦没者として弔うことは一人ひとりの思いをここに立て戦争の時代を問い—国のあり方を問うことによつてそこに生きて一人ひとりの生の意味を問い直すことでもあります

その時死者たちの声は人類の願いとなつて響いてくるに違いありません—その響きこそ—如来の本願ではないかと思つています